



宮本住建がこだわり守り抜く。古の技術と現代の仕様の融合「ハイブリッド手刻み」

古くは法隆寺建立のころから受け継がれてきた知恵である最高の技術「手刻み」+「構造計算」+「長期優良住宅」を標準仕様としています。それができるのが日本有数の技術を持った「宮本住建」です。お客様の顔を思い浮かべながら木材を一本ずつ大工が見極め、家のどこに使用するかを適材適所で配置し、木本来の性質を最大限活かしていきます。機械で木を切りだすプレカットが主流の現代において、なぜ宮本住建が「手刻み」にこだわるのか。それは決して機械に真似ができない技術が安心につながるのと我々が信じているからです。

Miyamoto Brand ‘Tekizami’

手刻みという卓越した技術は 言わば「直筆のお手紙」 手刻みの技が心に安心感を刻む

大工には機械に真似のできない腕があります。古くから受け継がれてきた技術と知恵で木の性質を見極め、一本一本丁寧に仕上げていきます。



大工の技量が問われる手刻み。現代では手刻みができる大工が激減している



大工の設計図「番板」。大工はこれをもとに、手刻みをし、家を建築していきます。



木組みは木の癖組なり。一本一本、木の癖を見極めていきます。何年たてばどれだけ、どう反ってくるか、大工の目にかかれれば一目瞭。これは機械では決して真似をすることができません。



木材の選定が終わり、墨付け（加工をするための目印）を行います。この作業を行えることが棟梁（熟練の大工）の証なのです。

様々な人の手が加わり、あなたの家の木が生まれます。

今まで家に使われている木がどの土地で生まれた木か想像したことがあるでしょうか。兵庫県産材を使用すれば住宅ローンの優遇を受けることができるのですが、兵庫県産材を使う本当の意味は別にあると考えます。それは木の生い立ちを知ることです。家族を将来まで育ててくれる木が、どこで生まれどんな人が育て、手が加えられたのか。それを知るからこそ、安心の家を建てることができます。

定期的に森林見学会を開催。子供たちとともに、木の生い立ちに触れる



兵庫県の森林で育てられる木材



一本一本丁寧に切りだされる



木の知識を楽しく学ぶ子供たち